

35 華岡青洲及び春林軒塾に関する

岡山県内資料

○中山 沃・石 田 純 郎

現在までのところ、岡山県内に青洲自筆の書幅二、画像一、書状一が確認されている。

一、青洲遺墨二幅（玉野市玉、藤岡家蔵）

1. 医惟在活物窮理

2. 徳不孤兮必有隣―徳孤ナラズ、必ず隣有り。（論語、里仁篇）―道徳を守る者は孤立しているように見えるがけつしてそうではない。きつとき理解者の隣人があらわれるものだ。

先祖の藤岡順介が春林軒塾に入門している。すなわち門人録に、「文政八年四月二日児島郡玉村藤岡順介」と記され、大坂の合水堂に入塾している。玉野市奥玉にある墓碑に、「嵐螢快遊居士 藤岡順輔 元治丑年四月」と刻まれて、享年は不明である。その他の墓碑から、順介

の祖父が友仙（当高、文化十一年没、七七歳）、父が順仙（天保五年没、五七歳）と思われ、その他、「芳樹塚 俗名藤岡順碩、文化十年三月四日卒」と記された墓もある。いずれも名前から考えて医師である。

順介（輔）の次は顕照（足守、福光家より養子）、つづいて寿―節―莊一郎（現当主、獣医）である。昭和五八年二人で藤岡家を訪問した時、昔の往診駕籠があった。

二、青洲画像

青洲の白柄、朱鞞の刀を帯びた肖像で、次の賛が書かれている。

竹屋簫然鳥雀喧 風光自適臥寒村

唯思起死回生術 何望輕裘肥馬門

右門人河野煥清讚

予像為書写之

于時文政癸未（六年）夏

青洲野翁 印 印

この画像の所蔵者英田郡美作町小林俊雄氏は安政三年四月大坂の合水堂に入門した小林惇造（家系図は純造）の曾孫である。華岡の門人録の中に河野煥清の名はない。

しかし河野姓を名乗る人物は左の五人である。

名前 生国 入門年

才二郎 讚岐 嘉永元年

寿仙 讚岐 安政五年

周民 豊後 弘化三年

甫庵 美作勝山藩中 嘉永二年

文平 備前邑久郡尻海村 文政六年三月

これから考えると河野文平が河野煥清と同一人物でないかと考えられる。何らかの機会に小林家の手に入ったのではなからうか。

三、赤石退蔵宛、青洲書状（和気町歴史民俗資料館蔵）

其後は久々打絶疎闊之至ニ罷過候、／時下暑氣厳敷御座候処、貴家益々／御清穆可被成候、入珍重在具隨而／野生儀無貪ニ拙業相勤居候、乍憚／御安慮可被成下候、世悴雲平儀、御／厚情御世話被下候由、千万辱、彼儀者／御存之愚物ニ御座候故、家名相続可致／聞上相見不申候得共、外ニ世悴無之事／ニ御座候得者、相成迄者修行得致度存念／ニ御座候、何分学事出精之様嚴敷御申聞／可分迄且文辭之稽古無ニ油断相勤御申聞／可

被候、諸先生江愚書差上御頼申上度候／得共、遠方之事故、御姓名儀慎ニ不承候／間、無首悪失敬御居候、

乍憚從貴君宜敷／御申上被下候様、奉頼上候、先者右申／上度如斯ニ御座候、 恐惶謹言

六月七日

赤石退蔵様 華岡隨賢

旨々御家内何茂様へ

乍憚宜敷御伝声可被成候

文面の青洲の長男雲平（一八〇一—一八三二）は青洲の門人備前和気郡北方村の赤石退蔵（文化六年三月入門）を頼って儒学と医術の基礎教育を受けていたと考えられ、備前藩校閑谷齋に通っていたのか、その教授職にあつた退蔵の親、順治の従兄弟武元君立らに私淑していたのかもしれない。赤石退蔵（希范）は「華岡家治験図巻」に序文を記している。

四、その他演者所蔵の青洲の書幅、「桃季一園香」および青洲の門人難波抱節、経直親子が華岡家へ報告した手術症例を報告する。

①西宮市

②新見女子短期大学